

(25) オクラ

ア 各病害虫の防除

オオタバコガ

カメムシ類

アブラムシ類

ア 各病害虫の防除

【留意事項】

(□は総合防除計画に掲載している病害虫)

オオタバコガ

・ [共通防除の章のオオタバコガの防除の項](#)を参照する。

(予防に関する措置)

- 1 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 2 施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットによる被覆を行う。
- 3 本種に対しては、防蛾用黄色蛍光灯の夜間点灯の効果が高い。これは、ハスモンヨトウやシロイチモジヨトウなど他の夜行性の蛾にも効果がある。
- 4 交信かく乱剤を活用した防除を行う。
- 5 施設栽培においては、栽培終了後に蒸込み処理を行う。

(判断、防除に関する措置)

- 1 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等を行う。
- 2 寄生果を見つけ次第、除去する。
- 3 食害や糞の近くには幼虫がいる可能性が高いので、発見に努め、見つけ次第捕殺する。
- 4 新芽や花蕾には卵や若齢幼虫がいることが多い。摘心した側枝や蕾はほ場外に持ち出し処分する。
- 5 生物農薬を活用した防除を行う。
- 6 作物残さを適切に処分する。
- 7 蛹化は土中で行われる。発生の多かったほ場では、ロータリーをかけたたり、ほ場を冠水したりすることで、土中の蛹を死滅させる。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 交信かく乱剤を活用する。
- 2 生物農薬を散布する。
- 3 発生を認めたら、薬剤を施用(散布)する。

カメムシ類

(判断、防除に関する措置)

- 1 アオクサカメムシ、ミナミアオカメムシ、ブチヒゲカメムシなどが発生する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発生を認めたら、薬剤を施用(散布)する。

アブラムシ類

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 生物農薬を予防的に散布する。
- ※天敵の放飼と薬剤散布(殺菌剤を含む)とを併用する場合は、[農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」](#)を参照し、天敵に影響の少ない農薬を選択する。
- ※アブラムシ類の生息密度が高まってからの放飼は十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの放飼が重要である。また、アブラムシの種類と天敵の組み合わせによっては、効果が認められない場合がある。
- 2 気門封鎖剤を散布する。
 - 3 発生が予想される場合には、薬剤を施用(散布)する。

センチュウ類

・ [共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発生が予想される場合には、薬剤を施用(散布)する。